

## 調査研究報告書

事業主体名	大阪大学	電話	
代表者職氏名	大学院生・中丸和	ファクシミリ	
調査研究名	多機関連携による南相馬市の子ども支援体制の構築(PHASE2)		

## 1 調査研究の実施概要

実施内容	<p>南相馬市の課題解決のために、以下の調査研究を実施しました。</p> <p>みなみそうま復興大学を通じて南相馬市を訪問する学生同士の連携不足やその活動について市民が知る機会がないこと、また本年度に関しては特に新型コロナウイルス感染症によって子どもたちに新たなニーズが発生していると考えられるがそのニーズの把握が具体的になされていないなど、連携する際にそれぞれの機関の特性を生かした支援活動が実施しづらい状況にある。そこで、本年度は南相馬市を訪問する学生たちがそれぞれの得意分野に合わせて、市の子どものニーズに即した支援活動を行うことができるように、以下のことを実施した。</p> <p>1) 保護者や連携機関（NPO 法人南相馬こどものつばさ）等への聞き取り、資料調査＜現在の子どもの様子や、子ども支援のニーズ、他支援団体の状況などについて＞（2～3月）</p> <p>2) 小中学生向けのオンライン京都歴史ワークショップを開催（3月30日）</p> <p>1) 保護者や連携機関（NPO 法人南相馬こどものつばさ）等への聞き取り、資料調査＜現在の子どもの様子や、子ども支援のニーズ、他支援団体の状況などについて＞（2～3月）</p> <p>他支援団体も多く利用している宿泊施設や保護者等の聞き取りからはまず、新型コロナウイルスの影響でそもそも支援団体が支援に来ることができなくなっていること、今年度はほとんどの団体でキャンセルが生じていることがわかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響で他地域との関わりやそれを伴う体験活動（旅行など）などの機会も減少していること、さらに感染症予防として ICT の活用などが叫ばれているものの、特に特に保護者からはパソコンの使用方法を子どもが知る機会があまりないという声が聞かれたり、学校でもタブレットの活用状況は芳しくなかったりすることが明らかとなった。</p> <p>さらに、保護者の聞き取りからは、子どもたちのニーズについて多種多様な声が聞かれた。例えば、学習を教えてもらいたいと言った声のほか、他地域のことについて子どもたちに知ってほしいといった声、具体的にパソコンの使い方を教えてほしいという声、また子どもたち同士が他地域の子どものも含めて協働して取り組めるワークショップを望む声（特に小高区）などがあった。このように多様なニーズに回答していくためには、それぞれの支援団体の得意分野とニーズをうまくマッチングし、活動していく必要があると考えられる。</p> <p>2) 小中学生向けのオンライン京都歴史ワークショップを開催（3月）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で地域を超えた体験活動が難しくなっていること、またパソコンの利用は難しい子どもが多いことを踏まえて、スマートフォンからも参加可能な zoom を利用して、オンラインで京都と南相馬市を繋ぎ、京都の名所を大学生と一緒にめぐりながら歴史について楽しく学ぶワークショップを実施した。またそのワークショップ用の動画については編集し大学生のみが映る状態で youtube にアップしている。この活動においては、支援団体である NPO 法人日本教育再興連盟の大学生と連携した。</p>
------	---

	<p>その他にも、過去の大阪大学による地域課題解決調査研究事業にて大学間の連携が必要であるということが明らかになったことを踏まえて、8月には広島文化学園大学と連携して、大阪大学では主にオンラインでの支援を中心に、子どもの学習の見守りや質問対応などを行う学習支援活動も行なった。</p>	
調査研究費	総事業費	238,410 円
	うち補助対象経費	238,410 円
	補助金額	238,410 円
調査研究期間	2020年 7月 1日 ～ 2021年 3月 31日	

## 2 事業実施の成果

南相馬市の課題	<p>調査研究により、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、支援団体間の連携より先にそもそも支援団体が支援活動を実施することが難しい状況となっている。また、オンラインでの支援活動の実施も可能である一方で、オフラインに比べてオンラインでの活動には子どもがなかなか参加しづらい状況がある</li> <li>・一方で、子どもたちには多種多様なニーズが存在し、それぞれの団体が連携しながら、得意分野に合わせて多様な支援を提供していく必要があるとともに、それぞれの得意分野とニーズをマッチングさせていくことが求められる</li> <li>・特に小高区では児童生徒数の減少が大きく、子どもたち同士が他地域の子どもも含めて一定以上の人数で協働して何かに取り組む活動などが求められていること</li> <li>・支援団体の参入が難しい年ではあったものの、地域の子どもたちには一定のニーズが存在していること</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、学習の機会だけでなく、特に地域を超えた人の移動が前提となっている旅行や他地域の人との触れ合いによる学びの機会が減少している</li> <li>・オンラインでの活動参加に欠かせない、タブレットやパソコンの使用について、特に子どもたちの間ではパソコンの使用に難しさを感じており、その使用方法などを学ぶ機会が欲されている</li> </ul> <p>という状況が判明し、南相馬市の課題が明確になりました。</p>
課題解決の提言	<p>課題解決のためには、以下のような取り組みが必要とされます。</p>